

顧客に寄り添う復旧対応を展開

令和6年能登半島地震においては、官民を挙げて上下水道界一丸となった復旧の取組みが展開された。こうした中で、能登地方に数多くの設備を納め、顧客を有してきた荏原商事が大きな存在感を発揮した。被災事業体において想定外が重なった初動から復旧に至る過程の中で、同社の顧客に寄り添った対応が、被災地の復旧を前進させる原動力となった。本紙では、同社の島田薫社長に、能登半島地震におけるこれまでの対応を振り返ってもらうとともに、災害時対応における工夫、心得を聞いた。

荏原商事 島田 薫 社長に聞く



た経緯があります。

■荏原商事と能登地方
荏原商事は創業から76年の歩みの中で、能登地方、そして北陸のお客さまとの深いつながりを築いてきました。

社名に「荏原」を冠していますが、当社は荏原製作所の販売代理店としてスタートした歴史を有します。中でも上下水道施設、特に水道施設のエンジニアリングを得意とし、幅広い地域に展開してきました。

荏原製作所の創業者である島山一清氏は七尾城主の子孫で、石川県にルーツを持つことも縁となり、当社は、新潟、富山、石川、福井の4県、特に能登地方において、サービス網を重点的に構築し

迅速な初動対応

石川県内では、輪島市、珠洲市、七尾市、能登町、穴水町、志賀町をはじめ19市町に水道・下水道のお客さまがいっぱいあり、加えて、石川県、国の農業用の揚水・排水機に七尾市への転居サポートを行いました。また、生活物資が不足すること

を想定し、能登支店関連の従業員への生活物資調達に取り掛かり、発災5日後に福井支店から能登支店に2トトラック1台の物資を届けました。

同時に当社が納める設備の状況確認を急ぎました。日頃から非常時対応の訓練を行っていたことに加え、直前にも安否確認等の情報連絡の練習を行っていたことも功を奏しました。

奥能登営業所は、奥能登地域が金沢からのアクセスが悪く、能登地方全域に十分なサービスが提供できないという思いから設置した背景があります。まさに、能登半島地震では、お客さまの近くでサポートする大切さを実感しました。

対応を主体に支援を行いました。

元日の発災直後から、社員の方の安全確認を優先的に、スムーズに行うことができたが、自宅が被災した輪島市在住の社員については、早急の休職スペース・仮眠所を確保しました。

初動対応では、東日本大震災を東北支店の支店長として経験した社員が、北陸支社長として現場の陣頭指揮を執ったことで、これまでの教訓が最大限に生かされました。

同時に当社が納める設備の状況確認を急ぎました。日頃から非常時対応の訓練を行っていたことに加え、直前にも安否確認等の情報連絡の練習を行っていたことも功を奏しました。

奥能登への交通網が寸断された中で、日頃から積み重ねた地の利、地元との取引先からの情報を駆使し、いち早く奥能登の

対応を主体に支援を行いました。

連日、長時間の移動を強いられ、帰還できない状況も想定されたため、奥能登の交通の要衝となる穴水の奥能登営業所に社員の出張サポートを徹底しました。

中でも七尾市の岩屋浄水場では、自己水の浄水運用を維持しながら、復旧が長期化した奥能登水道からの受水対応との調整にかかる現場対応に苦慮しました。通信障害等のトラブルも生じる中で、

最大限に生かされました。日頃から非常時対応の訓練を行っていたことに加え、直前にも安否確認等の情報連絡の練習を行っていたことも功を奏しました。

奥能登への交通網が寸断された中で、日頃から積み重ねた地の利、地元との取引先からの情報を駆使し、いち早く奥能登の

対応を主体に支援を行いました。

断水が続く給水エリアが点在する地域特性から、既存の送水系統とは別の浄水・送水系統を設けることとなり、河川水から浄化できる設備を、日頃から取引のある水処理メーカーと連携して機器・材料を調達し、設置しました。計画、実施設計、着工に至るまで本来であれば数か月かかる業務ですが、社内の営業、設計、工事の各部門が一丸となって取り組んだ成果だと考えています。

下水道設備ではマンホール接続箇所での不具合が多く、数多くの切り回り、調整をスムーズに行うことができました。

奥能登営業所は、奥能登地域が金沢からのアクセスが悪く、能登地方全域に十分なサービスが提供できないという思いから設置した背景があります。まさに、能登半島地震では、お客さまの近くでサポートする大切さを実感しました。

奥能登への交通網が寸断された中で、日頃から積み重ねた地の利、地元との取引先からの情報を駆使し、いち早く奥能登の

対応を主体に支援を行いました。

発災が年度末というタイミングであり、対応人員、資材の調達が懸念されました。

一方、ライフラインを担う企業として、会社自体が災害に強い会社でなければならぬと改めて感じています。被災地では、これから、復旧から復興、街づくり、都市計画へと移行してまいります。

奥能登営業所は、奥能登地域が金沢からのアクセスが悪く、能登地方全域に十分なサービスが提供できないという思いから設置した背景があります。まさに、能登半島地震では、お客さまの近くでサポートする大切さを実感しました。

奥能登への交通網が寸断された中で、日頃から積み重ねた地の利、地元との取引先からの情報を駆使し、いち早く奥能登の

対応を主体に支援を行いました。

羽咋市さまの羽咋浄化センターでは、液状化により場内配管が被災しましたが、日頃から管理している熟練の社員が手動運転によって運用を継続しました。

奥能登営業所は、奥能登地域が金沢からのアクセスが悪く、能登地方全域に十分なサービスが提供できないという思いから設置した背景があります。まさに、能登半島地震では、お客さまの近くでサポートする大切さを実感しました。

奥能登への交通網が寸断された中で、日頃から積み重ねた地の利、地元との取引先からの情報を駆使し、いち早く奥能登の

奥能登への交通網が寸断された中で、日頃から積み重ねた地の利、地元との取引先からの情報を駆使し、いち早く奥能登の

奥能登へのサービス網生かし

能登半島地震の対応では、社員の責任感の強さ、真面目さ、顧客への思いやり、歴史に基づいた顧客との信頼関係といった当社の強みが発揮されていると感じています。現地対応に奔走した社員、バックオフィスを支えた社員の奮闘に感謝しています。

一方、ライフラインを担う企業として、会社自体が災害に強い会社でなければならぬと改めて感じています。被災地では、これから、復旧から復興、街づくり、都市計画へと移行してまいります。

過疎化が進んでいた能登地方を襲った大地震は、これからの地域のあり方に課題を投げかけるものですが、住民の暮らしを支える上下水道事業が行われないという選択肢はありません。官民連携による事業継続が一層重要になるものと感じています。

全国的にも官民連携のニーズが高まっていく中で、当社の強みである総合エンジニアリング力、最善の復旧策の提案・活動ができる会社でなければならぬと考えています。能登半島地震の対応では、社員の責任感の強さ、真面目さ、顧客への思いやり、歴史に基づいた顧客との信頼関係といった当社の強みが発揮されていると感じています。